

## 今日のキーワード 上昇する「豪ドル」相場（豪州）

オーストラリア（豪州）は先進国であると同時に、世界有数の資源国でもあります。2014年は輸出額の63%を鉱物・資源、そのうちの39%を鉄鉱石で占めました。一方、同年の国別輸出を見ると、トップは中国で全体の34%、続いて日本の18%などとなっています。米国向け輸出は全体の4%を占めるに過ぎません。このような経済・貿易構造を持つ豪州の通貨は、資源価格や中国の経済動向の影響を強く受けます。

### ポイント1 上昇する「豪ドル」の対米ドルレート 金融緩和にもかかわらず上昇

- 豪州準備銀行（RBA）は、8月の金融政策決定会合で利下げに踏み切りました。インフレ率が、RBAの目標値である+2～+3%の下限を下回った状態が続いているためです。
- ところが、金融緩和にもかかわらず、「豪ドル」の対米ドルレートは上昇軌道を描いています。豪州の主要輸出品目である鉄鉱石や石炭といった資源価格の上昇が、その要因と考えられます。

### ポイント2 豪州の主要輸出品である鉄鋼石、石炭の価格が上昇 中国での減産などが奏効

- 資源価格上昇の背景には、中国の景気対策への期待感、中国にある鉱山の減産があります。
- まず鉄鉱石については、中国の経済対策期待の側面が強いと考えられます。景気刺激策による需要の盛り上がり期待して、鉄鋼市況が好調なことから、鉄鋼メーカーが原料の手当てを活発化させているようです。
- 一方、石炭市況には、中国政府による鉱山の生産能力削減や減産指導が効いているようです。昨年末に中国で開催された中央経済工作会議では、中期的な生産能力の削減目標を5億トン（生産量の13%相当）に設定しました。これは15年の豪州の石炭輸出総量である約3.9億トンを上回る規模です。



### 今後の展開 豪日金利差も相対的に大きく、「豪ドル」は対円でも底堅く推移

- RBAは緩和姿勢を維持すると予想されますが、日銀のさらなる緩和観測も根強く、今後、豪日金利差が急激に縮小する可能性は低いと見られます。豪日金利差は、「豪ドル」優位に働きそうです。
- 中国経済や資源価格も、堅調な展開を見込んでおり、これも「豪ドル」にとって追い風となります。以上から判断すると、「豪ドル」の対円レートは、当面のところ底堅く推移すると予想されます。

ここも  
チェック! 2016年8月19日 最近の指標から見る豪州（2016年8月）  
2016年8月18日 鉄鉱石・石炭価格の動向

■ 当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■ 当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■ 当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■ 当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■ 当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■ 当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■ 当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。